

【ご参考資料】

2014年6月6日

6月5日発表のECB(欧州中央銀行)の利下げについて

主要政策金利を0.25%から0.15%に引き下げ

2014年6月5日、ECB(欧州中央銀行)は定例理事会において、主要政策金利を0.1%引き下げ、過去最低の年率0.15%とすることを決定しました。実質的な市場金利の上限となる限界貸出金利は0.35%引き下げて0.4%とし、民間銀行が中銀に預け入れる余剰資金(超過準備)の金利を0.1%引き下げて-0.1%としました。ECBのマイナス金利の導入は初めてになります。

前回5月の会合後の記者会見で、ドラギ総裁が「ECBはユーロ圏の景気支援に向け、来月行動する用意がある」と発言していたこともあり、市場の予想通り約7カ月ぶりの利下げとなりました。

銀行融資促進策を含む政策パッケージ

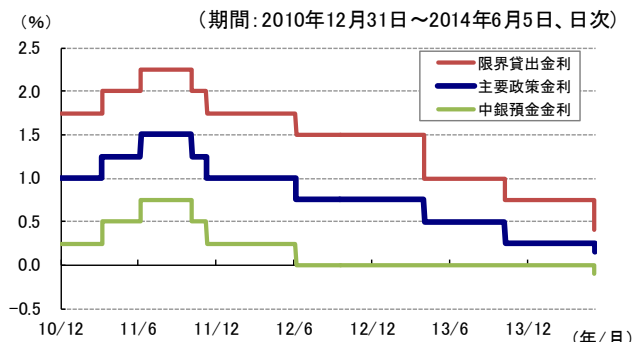
ECBは利下げに加え、銀行貸出の促進のため、銀行融資に連動する長期の流動性供給措置も発表しました。さらに、銀行の貸出債権を証券化したABS(資産担保証券)買入れに向けた準備を進めるとも表明しました。

ECBが異例となるマイナス金利の導入や銀行融資促進策を含む政策パッケージを決定した背景には、ユーロ圏のデフレリスクが高まっていることがあります。5月のインフレ率(速報値)が0.5%と前月から低下したほか、同日に発表された最新のECBスタッフのインフレ率見通しも、3月時点の予想から下方修正されました。こうした状況を背景として、ドラギ総裁は会合後の記者会見で、今回の措置で終わりではなく、必要であれば責務の範囲で行動すると強調しました。

6月5日のニューヨーク外国為替市場では、ユーロは一時下落したものの、政策の内容が概ね市場予想の範囲であったことなどから、対円で前日比0.1%程度、対米ドルで同0.5%程度のユーロ高となりました。次回のECB金融政策発表は2014年7月3日に予定されています。

以上

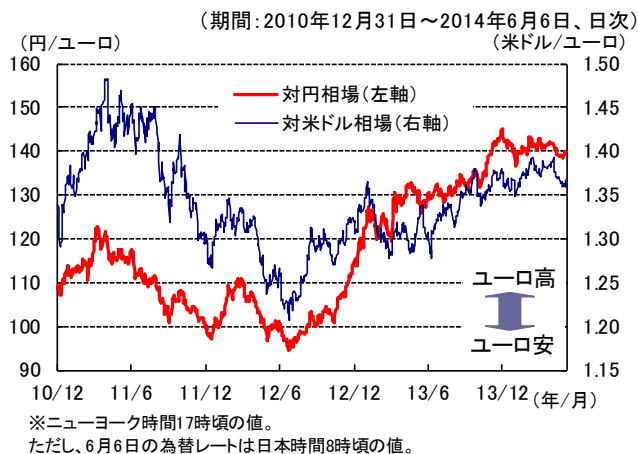
【図1】ECB政策金利の推移



【図2】ユーロ圏の消費者物価指数(前年同月比)の推移



【図3】ユーロの対円・対米ドルレートの推移



(出所) Bloombergデータより野村アセットマネジメント作成

当資料は、投資環境に関する参考情報の提供を目的として野村アセットマネジメントが作成したご参考資料です。投資勧誘を目的とした資料ではありません。当資料は市場全般の推奨や証券市場等の動向の上昇または下落を示唆するものではありません。当資料は信頼できると考えられる情報に基づいて作成しておりますが、情報の正確性、完全性を保証するものではありません。当資料に示された意見等は、当資料作成日現在の当社の見解であり、事前の連絡なしに変更される事があります。なお、当資料中のいかなる内容も将来の投資収益を示唆ないし保証するものではありません。投資に関する決定は、お客様ご自身でご判断なさるようお願いいたします。投資信託のお申込みにあたっては、販売会社よりお渡しします投資信託説明書(交付目論見書)の内容を必ずご確認のうえ、ご自身でご判断ください。